

「予防歯科」先進国・スウェーデンの状況

皆様も「予防歯科」を受けてみてはいかがでしょうか？

鎌田 俊 シュンデンタルクリニック院長

スウェーデンは「予防歯科」先進国として知られています。スウェーデンもかつては多くの人がむし歯や歯周病で歯を失っていました。その状況を重く見たスウェーデン政府は1970年代に「予防歯科」を国家一大プロジェクトとしてスタートさせました。その結果、現在では世界で最も歯科疾患が少ない国と言われています。

調査でわかった日本とスウェーデンの違い

スウェーデンが「予防歯科」先進国と言われる背景には国家の積極的戦略がありました。統計学からも日本とスウェーデンの違いがわかります。スウェーデン・イエテボリ大学は、むし歯と歯科医院でおこなうプロフェッショナルケアの関連性について大規模調査を行いました。その結果、むし歯予防にはセルフケアとプロフェッショナルケア

両方が重要であることがわかりました。従来の「痛くなったら治療する」という対症療法ではなく「予防歯科」が重要であると報告しました。

スウェーデン政府は「予防歯科」の考えを国策として採用し、歯科医院を受診することを義務化しました。国民全員が定期的にブラークコントロールと歯科清掃指導を受けることを義務付けしたのです。子どもの時から歯の健康が生活習慣として定着しています。

70歳の人の歯の違い

「年をとれば歯を失う」と考える人も多いのではないのでしょうか。スウェーデンでも1980年代ころまでは同じでした。日本人70歳の平均歯数は16本に対し、「予防歯科」を実践してきたスウェーデンでは21本と大きな開きがあります。スウェーデン国民は70歳になっても若い時とさほど変わ

らない歯の本数を維持していることになりました。

スウェーデンでは子どもの歯磨きについて、出産前からお母さんへの指導が始まります。乳児でも歯が生え始めるころから歯科医院で予防歯科が義務づけられています。治療ではないので子どもにとって歯科医は「怖い」「痛い」という印象にはならず、「歯について楽しく学ぶ場所」となります。日本ではどうですか。「嫌いな人・苦手な人」と答える人が大勢いませんか。

日本での「予防歯科」

近年、日本でも歯の健康は重要であるとして「予防歯科」の考え方を広めています。その結果、歯科医院で定期的な健診を受ける人や、積極的に「予防歯科」に取り組む歯科医院などが増えてきています。皆様も「予防歯科」を受けてみてはいかがでしょうか。



PROFILE

かまだ しゅん 平成16年岩手医科大学卒業。
平成18年岩手医科大学口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔分野。
平成23年岩手医科大学大学院卒業(博士号取得)。平成27年秋田厚生連雄勝中央病院(非常勤)。平成28年岩手医科大学非常勤講師。同年函館市内にシュンデンタルクリニックを開院。
日本歯科麻酔学会認定医、日本顕微鏡歯科学会、SJCD (Society of Japan Clinical Dentistry、歯科スタディグループ) 理事。

